

クラス	TU314	担当教員	山本敏郎
テーマ	子どもたちの生きづらさと向き合う教育実践をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『教育改革と21世紀の学校イメージ』いしかわ県民教育文化センター 2000年 ○『学校と教室のポリティクス』フォーラムA 2004年 ○『新しい時代の生活指導』有斐閣 2014年 ○『学校教育と生活指導の創造』学文社 2015年(予定) ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」日本生活指導学会『生活指導研究』28号 エイデル研究所 2011年。 ○「〈格差〉〈貧困〉問題と生活指導」『生活指導』2008年7月号		
ゼミナール概要			
キーワード：生きづらさ、貧困、生活指導、当事者性のある学び 生活者としての子ども etc.			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちが生きる勇気と希望を紡ぎだせるようにどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることができるのかを研究します。</p> <p>レディメイドの教科内容や指導マニュアルを使って、「うまく」子どもに教えたり指導することが教育だとは考えていません。そんな「うまい」話はありません（と、講義で話しているのでわかりますね）。</p> <p>目の前にいる子どもたちの現実との格闘から出発する教育、学校用の児童・生徒を演じさせるのではなく、自分自身を生きぬく闘いを支えることが教育だと考えるからです。</p> <p>このゼミでは、こうした実践している全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、教育実践をつくる力を身につけていきます。</p> <p>3年生のときは、生きづらさに向き合っている教育実践記録を検討したり、生きづらさと向き合うための理論（教育学に限らず、社会学、政治学、哲学も視野に入れて）を学びます。4年生では研究報告を順番に行います。年3回（4月、8月、11月）に合宿を予定しています。</p> <p>また、FACEBOOKにゼミのページを作っていますので、3年生同士、3・4年生間で、意見交流や情報交換も行います。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>① まず、自分が2年間何を学びたいかをじっくり考えてください。なんだかんだ言っても自分が研究したいことを見つけることができるかどうかをもっとも重要なことです。それをもって相談に来てください。卒業するころには、間違いなく、「知る—疑う（問う）—確かめる」力がみにつき、学ぶことが楽しいと感ずることができるようになります（歴代卒業生がそう言って卒業しているので間違いありません）。</p> <p>② 参考までに、今4年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。 ○学校へ行けない子どもの育ちに関する研究、○特別支援学級の存在意義に関する研究、○学習概念の転換に関する研究、○〈子ども理解〉という幻想に関する考察、○平等論に関する考察、○ドイツにおけるサッカーと公教育の関連についての研究、○犯罪被害者のケアに関する研究、○マンガのメッセージ性に関する考察、○特別支援学級の不要論に関する研究、○生活綴方における生活と学習の結合に関する研究、○防災教育に関する研究、○コミュニケーション能力に関する研究、○契約で結ばれる家族についての研究、○小学校におけるキャリア教育の可能性についての考察、○自己表現における演劇教育の役割に関する研究、○教師の有形力の行使に対する感覚に関する考察</p> <p>③ ゼミを中心に学生生活を設計してください。自分のことを「生徒」(pupil)と呼ぶ人もいたり、あなたたちのことを「生徒」と呼ぶ大人もいるようですが、このゼミでは「学生」(student)であることを求めます。ですから、あなたたちはわたしをteacherではなくてprofessorとして遇ってください。細かく管理することはしませんが、ゼミを軽視すると途中でサヨナラしてもらうこともあります。</p>			